



3



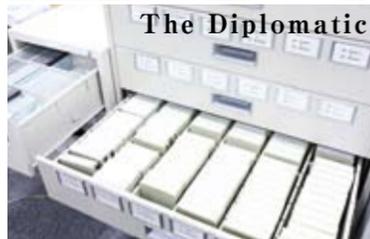
1

外務省



4

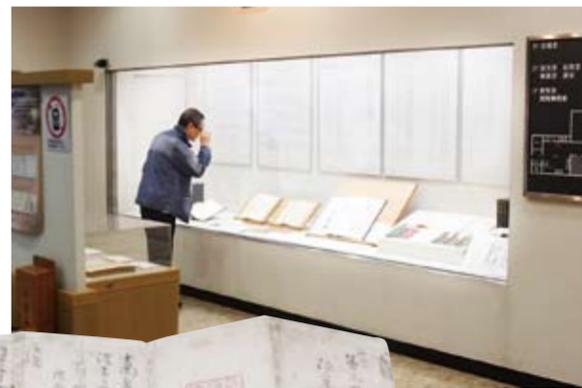
The Diplomatic Record Office of the Ministry of Foreign Affairs



5



6



2



外苑東通りの飯倉片町から飯倉の交差点に向かう途中、麻布郵便局と並び立派な構えを見せる外務省飯倉公館。首脳会談や国際会議、レセプションなどで使われる建物だ。我々一般人には無縁な場所と思われがちだが、この飯倉公館の隣にある外交史料館のほうは、だれでも自由に入ることができる。幕末以降の日本の、歴史的な価値のある外交史料が保存されていると聞き、訪れてみた。



7

【本館】

- 1 昭和に活躍し数寄屋建築を独自に近代化した建築家、吉田五十八による建物。上部の菱形文様が和風だ。
- 2 ロビーには外交史料館の活動と所蔵史料を紹介する展示が。幕末の旅券は、当時は写真もなく、本人をあらわすのに「身丈高き方眼小さき方」などと言う表現が使われているのが面白い。
- 3 書見台の置かれたデスクでゆっくりと閲覧できる。
- 4 戦後の史料はマイクロフィルムをリーダー機で再生して閲覧する。
- 5 外交上の主要な文書を総合的に編さんした「日本外交文書」を、現在までのところ 202 冊を刊行。大正期までのものは「デジタルアーカイブ」としてインターネットでも無料公開。
(<http://www.mofa.go.jp/mofaj/annai/honsho/shiryu/archives/>)
- 6 歴史を感じさせる肉筆の原本。昔の人は達筆だった。
- 7 古く傷んだ史料は、専門家が根気強く修復作業を行う。

外交史料館

外務省外交史料館は通りに向かって大きく張り出し、黒い鉄のフェンスも開かれて入りやすい雰囲気だ。開館は昭和 46 年 (1971 年) 4 月。戦後、外交史実への関心が高まり、その研究が急速に進む中で開設された。

所蔵史料は多様で、メインとなる外務省記録ファイルだけで 6 万冊をこえる。興味深い所蔵史料の一部を挙げてみよう。最も古くは開国前後の外交史料を編集した「通信全覧」と「続通信全覧」。この他、幕末から第二次世界大戦終結までに締結された戦前期の条約書の数々、重要文化財の「日米修好通商条約 (安政 5 年・1858 年)」や「日清講和条約 (明治 28 年・1895 年)」 「ヴェルサイユ講和条約 (大正 8 年・1919 年)」などだ。文久元年 (1861 年) アメリカ大統領リンカーンから徳川 14 代将軍家茂にあてた親書もある (これら条約・親書類は後述の別館で見ることができる)。旅券、つまりパスポートも保管され、その変遷がわかる。

史料は所定の手続きのあとに閲覧できる。戦前の史料は主に原本で、戦後のものの多くはマイクロフィルムで見ることができる。まず閲覧室の入り口カウンターで、総目録の中から閲覧したい資料を探し、原本の場合は地下書庫から 30 分ごとに上がってくるのを待つ。マイクロフィルムは、専用のリーダー機で再生する。明治期の文書を出してもらったが、古びた紙に墨文字や朱印、タイプの欧文文字が見え、欄外のインクの滲んだメモ書きなど、実にリアル。教科書の写真や記述でしか触れることのなかった貴重な文書を前に、歴史ファンならずとも、釘づけになる。

来館者の多くは、外交史や国際政治史の研究者、学生だが、最近は歴史愛好家や、移民として海外に渡った先祖の旅券記録を調べに来る人もいるという。

飯倉公館をはさんで反対側には、吉田茂国際基金より寄贈された別館があり、常設展示に加え定期的な特別展示が行われる。散歩の途中、外交の足跡をたどり日本の歴史を考えるひと時をもってはいかがだろうか。



8



10



9

【別館】

- 8 まるで美術館のような、静けさの漂う展示室。6 月末まで企画展示「原敬と転換期の日本外交」展を開催中。
- 9 別館展示室には吉田茂関連の資料も常設展示されている。これは晩年愛用の、米寿の祝いとして御下賜された菊のご紋入りの鳩杖。
- 10 展示室の入り口に飾られた、大磯宅の吉田茂の写真。実にスタイリッシュだ。

麻布びと



「麻布の粋・・・離れられないです」

株式会社ゴトウ花店 代表取締役社長 後藤尚右さん (47)

六本木交差点ほど近く、外苑東通りに面した重厚感のあるビルの1階にまるでヨーロッパの絵葉書から抜け出たような佇まいのフラワーショップ「U.GOTO FLORIST」がある。明治25年(1892年)の創業。大正8年(1919年)には日本で初めて輸入洋花を取り扱い、今や生花、アートフラワー、イベント、ウェディングのデコレーションまで手掛け、常に注目を集めているお店だ。一見するとまるで芸術家のような後藤尚右さん(47歳)はこの日本を代表するお花屋さんの4代目にあたる。

ここにしかない空間

創業からこの場所で117年…確かに長いとは思いますが、まあヨーロッパなどにはもっと長いところもありますね。戦争中はちょうど僕の祖父祖母の代がやっていたこの辺は空襲のため焼け野原で、そんな時に花を買う人なんていませんから、おばあちゃんが一瞬団子屋にしようと思ったそうなんです。たまたまお花を買いにいらしたあるお客様に話したら「こんな時だから食べ物屋さんをやる人はいるでしょう、だけどこんな時だからこそひとりくらい、あなたくらい花屋さんでもやらなきゃ誰が人の心を潤すの?」と怒られて、でもそのおかげで一度切れそうになったけど継続することができたという話を聞いています。14年前ここを建直すまでずっと代々ここに住んでいました。昔の六本木は静かだったんですよ。変わったのは東京オリンピックの頃、地下鉄が通って今の六本木っぽくなってきたのかなあ。

大正時代から洋花を扱っていたお花屋さんと同ただけで当時の街でハイカラなスポットとして賑わっていたさまが容易に想像できる。先代の社長であるお父様がその当時としてはなかなかできない海外修業の経験をされており、そのお父様の薦めもあって、ご自身も海外修業に行かれた後藤さんのお話は、グローバルで気持ちがいい。

大学2年のときにお店を継ぐと決まり、学生時代からお店でアルバイトをして多少の知識はつけていたので卒業してから4年…アメリカとヨーロッパの大都市の一番いいお花屋さんを中心に丁稚奉公してひとりで回りました。フランス料理やイタリア料理のシェフの修業のような感じですね。ただ花のデザインだけではなくマーケティングとかビジネスのあり方なども面白い、学ぶべきところがあるのでそういうものを見ながらですね。最初シカゴの大きい花屋で始めました。ここはたまたま当時の副社長を父が知っていたので手紙を書いてお願いしてそこで働かせてもらいましたが、あとは全部自分で手紙書いたり名刺持って飛び込みですね。まじめにやっていたら気に入ってくれるので、ニューヨーク、ワシントン、サンフランシスコ、いい花



屋さんはお互いに横の繋がりががあるので紹介してもらって、車を買って大陸横断してあっちこっち行きました。楽しいですよ。自分で好きなところへ行って勉強できますからね。途中でパリ、阿姆斯特ダム、イタリア…腰を据えて働いたのはパリですね。国や地域によっていろいろ違いますが、ヨーロッパのほうが洋花の歴史が長いし、目を見張るようなデザイン性、色の合わせ方とか、斬新な技術などは当時は進んでいたのかなと思いますが、経営面ではアメリカが柔軟にいろんなことをやっていた面白かったですね。今お店の内装、照明、家具、イベント、どこの国の人間を雇うのか、シャンパンを売ったりコンサートをやったり、これは全部私の考えです。世界中で見たところのいいとこ取りですね。

「こんな格好ですみません」とラフなジーンズ姿で現れた後藤社長。音楽家か美術家の雰囲気か漂う。普段からTシャツ姿で自ら店内で作業をされているそう。華やかに見えて実は重労働と聞くお花屋さんの仕事をされているからがっちりとした筋肉質なのかと思いきや…

芸術というより、小学校1年生で丸坊主にされてマルコメくんですよ(笑)。それで無理矢理柔道をやらされて…。ところがやっているうちに面白くなって関節技を決めているほうが好きでした(笑)。でも流れの中で相手と駆け引きしながら技を掛けていく…あれはそういう意味でアートですね。柔道のいいところは慶応の寒稽古などでおじいちゃんと6歳の小学生が稽古で肌と肌を合わせられる。これはなかなかない。お互いの



世代間の優しさが道着を通じて伝わるんですよ。先輩が小さい子の背負い投げに痛みを我慢して飛んであげたりする。これは「スポーツ」とは違う、「武道」ですよ。柔道は偉大ですね。嘉納治五郎※1先生はえらい。お札にして下さい(笑)。

昨年、区民大学「麻布学」(Kiss ポート財団・東洋英和女学院大学共催)で講師をされた経験のある後藤さん。この地で生まれ育った後藤さんから見た「麻布」とは…

講義では江戸時代からどう変化してきたのか、僕の知っている限りのこととお話しつつ、麻布の人達が昔から持っている気質みたいなものをお話しました。それイコール今後の麻布地域の良さになっていくのかなと。例えばうちのようにいち早く何かを扱った店などが多い。異文化との交流をいちばん早く持った土地柄のせいでしょうか。先取りの精神を持ったというのは必然中の必然かなと思います。麻布のいいところは十把一絡げにならないところ。理路整然としてみんな同じだったら面白くないでしょ。小さな地域に本当にいろんなものがある。そこからまたいいものが生まれる。余計なお節介や干渉はしないけど認めている。最高ですね。これが麻布の粋だと思います。

初めてU. GOTO FLORISTの中に入った時、広い店内に溢れる大胆でゴージャスなデコレーション、上質なお花の数に驚いた記憶がある。お店の中央に置かれたグランドピアノの生演奏を聞きながらのインタビューだったが後藤さんから時々出る歯切れのいい江戸弁がお店の雰囲気になぜか不思議とマッチする。「いいとこ取り」とおっしゃっていたがただの模倣ではない、他のどこにもないこの空間はまさに麻布の粋という言葉が凝縮されたような場所だと感じた。

※1 講道館柔道の創始者。学生時代から自らの鍛錬の為に学んだ柔術から柔道を創始。武道を通じての教育者として知られる。



階段を下りるとまさに「時空のトンネル」、ノスタルジックな風景に心揺れる麻布台



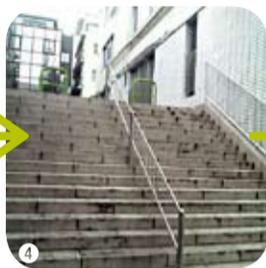
和朗フラット (スペイン村)
ザ・AZABU vol.7(September 2008)
に掲載されています。

今回のあざぶさんぽは麻布の「ぶち冒険」坂道や階段を楽しむ散歩コースをご紹介します。出発は麻布の中心、「麻布地区総合支所」から。① フィリピン大使館西の坂道を下り、② 静かな住宅地から大通りへ。首都高速脇の道を左に曲がり少し上り坂③を行くと、左側に少し急な上り階段を発見。④ 階段の上はどうなっているのか、期待しながら登った先は…。ほぼ平行に進む道路に続いており、冒険とまでは至らず。気を取り直し、飯倉片町交差点方面にもう少し進むと、今度は高架の首都高速道路から建物につながる橋に遭遇。⑤ 近づいてみると橋の先は建物ではなく、スロープになっていて、高速道路に出入りする緊急車両用の道路でした。運がよければ緊急車両の出動光景を間近で見ることができのかもしれない。

このまま進むと飯倉片町交差点になりますが、今回は地下道で道路を横断します。橋の下に位置する地下道への階段⑥を下りた先は、ただの地下道ではなく、立体構造になっている高速道路を横切るドームになっています。⑦ ま

た、高速道路を行きかう車を見ながら、騒々しいトンネルを明るいほうへ進んでいくと…。これまでとは一転、静かどころか懐かしさを感じる住宅街があらわれます。トンネルを出て右に進むと、通称スペイン村と呼ばれる和朗フラットが現れ、⑧ 果たしてここはどこなのかわからなくなる不思議な感覚になります。一般の方が居住する集合住宅の「和朗フラット」は一号館、二号館、四号館の三棟連なり、カフェもあるので、立ち寄ってみてください。⑨ 和朗フラットを進むとU字に戻る道があり、そこを進むと外苑東通りに出て、今回の表紙を飾る「飯倉公館」にたどり着きます。

トンネルの暗さの先に広がる明るさ、喧騒から静寂へ、そしてそこに広がるノスタルジックな風景で冒険気分も最高潮!坂道や階段を行く冒険はまだ続きますので楽しみに。



(取材・写真/伊藤孝志、鈴木敏江 文/鈴木敏江)

空想を描いて、見てさわられる形にしよう



「デジタルカメラは海外でも販売されているので、外国の人のことも考えて作ります。このデジタルカメラの背面には2列ボタンを配して、携帯電話のようなデザインにしました。」
(プロダクトデザイナー：今井雅純さん)

世の中にはいろいろな仕事があります
プロダクト
デザイナー

子どもに生きていく力を
親子で
読んでみよう

KIDS' ハローワーク



(上) 製品になるまでのイメージの絵をたくさん見せてもらいました
(下) FUJIFILM SQUAREのギャラリーでは写真展が月単位で開催されています

プロダクトデザイナーって何ですか?今回は、富士フィルム株式会社デザインセンター(西麻布)で、デジタルカメラのデザインをされた今井雅純さんに、お話をうかがってまとめてみました。

ジュニア編集員は、大智くん(6歳)と響ちゃん(9歳)です。ギャラリーを兼ねたFUJIFILM SQUARE(フジフィルム スクエア)で、デジタルカメラを見せてもらいました!

プロダクトデザイナーとは

プロダクトデザイナーとは、多くの人に使われる製品の外観(デザイン)を作る人です。今井さんの場合は、デジタルカメラの機能や形と色を考えます。(今井さんの作ったデジタルカメラは、世界最小の防水カメラです。アウトドアで、誰でも気軽に使えるよう、薄く軽く、丸みをつけ、鮮やかな色の製品にしました。)



今井さんがデザインをされたデジタルカメラを使って真剣に撮影中です!

デザインの流れでは、最初に、具体的な空想(イメージ)を絵にします。それには、全体のバランスがわかるように、色々な角度から見た、原寸大より小さい立体図を描きます。また、現物でのイメージ確認のために、粘土などを使った模型を作ります。これと平行して、平面図と立体図をパソコンで描きます。この段階になると、立体画像に色がついて、製品に近いイメージになります。デジタルカメラのデザインでは、0.1mm程の寸法の違いにもこだわります。寸法で、見た目や持った時の感覚が変わるからです。

デジタルカメラには、電池、レンズ、ボタンなどの部品や、内部の設計をする人、部品を材料から作る人、部品を組み立てる人、予算を考える人、製品を売る人など、様々な役割の人が関わっています。より良い製品を作るために、大切なところにはこだわり、会社の人と協力しながら、話し合いを重ねていきます。そうして時間をかけ

てできたデジタルカメラが、世界中の人に使われているのを見ると、とてもうれしくなります。

プロダクトデザイナーになるには

今井さんは、美術大学でプロダクトデザインを専攻しました。子どもの頃は、空想やプラモデルが好きで、物を組み立てたり分解したりしていました。そして、絵がうまいとまわりの人から言われていました。今は、空想を働かせ、「こういうのが欲しいなあ」という子どものような心を大切に、新しい製品のデザインを考えています。空想を現実にするには、それをわかってもらうための努力と、「やってみないとわからない!」という真面目で前向きな気持ちが必要だと思っています。

六本木駅から徒歩5分のFUJIFILM SQUARE(フジフィルム スクエア)では、デジタルカメラを手にとって試してみることができます。大智くんは、レンズがいつぱいだったデジタルカメラの絵を描いて、今井さんにあげました。その空想が、いつか形になるといいね!

(取材/石山恒子、伊藤志織、大村美子、鈴木大智 文/伊藤志織)





取材協力/キューバ共和国大使館

麻布の"世界"から Cuba

音楽とダンス、そして世界が注目する都市農業

キューバと日本は 2009 年に国交 80 周年を迎えた。柔道、野球、バレーボールなどのスポーツ、そして音楽とダンスで日本でもよく知られる国なのだが、実際はどんな国？と聞かれると以外と想像できないのではないかな。そこでまず、住む人々はどんな生活をしていて、どんな国民性なのかをホセ・フェルナンデス・デ・コシーオ特命全権大使にうかがった。

キューバはバハマ諸島の中でも最初にコロンブスが発見した島で、1492 年の発見以来スペインの支配を受けたため、その文化が色濃く残っている。一方、アフリカから受け入れた奴隷の影響も強く、文化的にも人種的にも「ミックス (混血)」なのだという。このミックスの要素と、古くから交通の要所として様々な人や文化に接する機会に恵まれていたことから、キューバの人々は多様性を受け入れる寛容さを備えている。また、日本でもおなじみのルンバ (ソン)、マンボ、ボレロ、チャチャチャなど、音楽やダンスが生活の身近なところにあり、皆が集まれば特別なことがなくても踊り出す、楽しくて陽気な国民性を持つ。学校や家で、いつでもパーティが始まるらしい。中米の小国キューバの音楽が世界中に影響を与え、これだけ広く知られるようになったのも、ミックスの力強さによるものだと大使はおっしゃる。

力強く、明るいキューバの人々だが、生活は必ずしも豊かではない。1991 年ソ連の崩壊で、農産物や化学肥料の輸入が途絶え、国民の 1/5、約 220 万人が暮らす首都ハバナでは、苦肉の策で自給自足を打ち出した。空き地を利用して、ミミズを使つての堆肥作りなど有機農法で、見事に農園に変えたのだ。ビルの屋上でも、温暖化対策の緑地化ではなく、食料充足のために野菜の栽培が行われた。政府主導ではなく、民間の力で始まったという大使の言葉に驚いた。この国では人口の約 70% が都市に集中しているため、何とか都市部で農業を発達させようと国民が努力している。今ではハバナに約 8,000 箇所の農園があり、各地の住民市場では毎日新鮮な野菜類が売られ、首都の自給率は 100% に達しているという。

それでは栽培した食料はどのように調理されるのか。平均気温 25℃ 以上の暑い国なので、スパイシーな料理が多いと思いきや、香辛料控えめ、塩味のあっさり風味が主流である。『コングリ』という黒豆と米を炊いたご飯を主食に、玉ねぎ、にんにくのみじん切りを多く用いた豚肉料理のメニューが豊富で、日本人の舌にも合うようだ。あっさり風味、ご飯、豚肉ということで、大使も大使館の職員の方々も、来日して食事で困るこ

とは全くなかったという。そしてお酒はサトウキビから作るラム酒。現地ではロンと呼ぶ。1870 年頃から生産され、3 年ものから 15 年ものまで、キューバを代表する酒である。

キューバの産業は、主に砂糖とニッケルの輸出が中心であるが、近年では観光に力を注いでいる。土地柄を生かしたビーチリゾートのほか、2005 年に世界遺産に指定されたシエンフエゴスの街をはじめ、コロニアル建築が残る街並を巡る市内観光 (オールド・ハバナ) など見所も多く、カナダやヨーロッパからの観光客がつかけるという。それに比べて日本人観光客が年間 6,000 名というのはちょっと寂しいと大使はおっしゃっていた。確かに少々遠いのだが PR 不足もあるので、今後どんどんキューバの魅力で日本でアピールしていきたいとのこと。陽気な国民性、音楽とダンス、暖かい気候とラム酒とビーチリゾート。まぶたを閉じると夢の世界が広がる。また行きたい国がひとつ増えた。



- 1 カナダ、メキシコ、英国の大使を歴任。アジアの国は初めてで、日本大使に決まった時はとても驚いたそうだ。日本は歴史も長く複雑な国なので、大変興味深いとのこと。
- 2 英語・スペイン語では「キューバ」ではなく「クーバ」と発音する。先住民のインディオの言葉らしいが、その意味は今でも明確になっていない。
- 3 キューバについて忘れてはならないのは葉巻。大使のお部屋にも立派な葉巻入れが飾られている。観光地のパンフレットと一緒にいただいたギフトも、ライターである。何ともキューバらしい。
- 4 キューバの情熱溢れる音楽は世界中に広がった。大使もダンスがお得意ですかと尋ねると「昔はね」という返事が返ってきた。
- 5 サトウキビから作られるラム酒。コーラとライム・ジュースを混ぜたカクテル「キューバ・リブレ」は、キューバの独立を祝って名づけられた。

Azabu-nista

麻布で働く外国人レポート



fashion model & jewelry designer
TAMY

モデル、ジュエリー デザイナー、そして介護ヘルパー。
ライフスタイルに合わせて“今の自分”にできることを。

西麻布の閑静な住宅街の一角に、「家庭画報」「エクラ」などで活躍しているファッションモデル、タミーさんの自宅があります。1985年、16才で母国ブラジル、サンパウロで行われた日系移民のビューティーコンテストで見事優勝。日本へ招待され、翌年モデルデビューしました。コココーラの TVCM、ファッションショーや雑誌の仕事など、瞬く間に売れっ子に。そして、あるショーで出会ったのが、コーディネーターを務めていたご主人、スペイン人のミゲール氏です。



「彼は西麻布に住んでいて、この周辺が大好きだったので、新居は南麻布でした」

結婚以来、住まいはずっと麻布周辺です。麻布の魅力を伺ってみました。

「街がインターナショナルで、外国人にとって住みやすい街だと思います。決してお節介ではない、かといって冷たくもない。公園やおいしいお店もたくさんあるしね」

大学生と高校生の2人の息子さんがいるとは信じられないほど、若々しいママでもあります。子供たちは公立の保育園、小学校に通ったので、日本食が大好き。タミーさんも日本料理を習いに行ったほどで、特にウナギには目がありません。

タミーさんは20年以上現役モデルで活躍する一方、

(右上) 愛犬メイと毎日散歩するタミーさんは、麻布エリアの公園はかなり詳しい
(左上) 集英社刊「eclat (エクラ)」より。173cmのスラリとした体型は何を着ても似合う
(右) タミーさんデザインのブラジルの石をあしらったネックレス



自分の興味あることにも積極的にトライしています。そのひとつがジュエリーデザイナー。14才で歯科医の父上が他界、1人っ子のタミーさんは、結婚を機にお母さんを日本に呼び寄せます。石の科学者であるお母さんの影響を受けて、母国ブラジルの天然石を使ったジュエリーブランド「TAMY」を立ち上げたのです。基礎を学



ぶべく、専門学校にも通い、一つ一つ手作りしています。

もうひとつは、介護ヘルパー。実習も経験して、1級の資格を取得。実はブラジルからはおばあさんも呼び寄せたいさつがあります。88才の生涯を終える最後の6年間、日本で過ごしました。そんな経験を通じてヘルパーに興味を持ったタミーさんは、学校に通いました。麻布周辺は外国人が多いこと、将来日本語が不自由な彼等のために少しでも役立てればと、タミーさんはあくまでも控えめですが、その発言には重みがあります。そして、前をまっすぐ見て話をしながら、キラキラと輝いている瞳と笑顔がとても素敵で印象的でした。

(取材/高柳由紀子、福本綾子 文/高柳由紀子)



♡ ことしの思いは ♡

Valentine's Day が近づいて来る。

いつも寒い季節になると
小さいパステルカラーのマシュマロをつかって
(一切り口がきれいだから) ロッキードと
いろんなタイプのチョコレートケーキを
作らなくちゃと思う。冬中、トリフチョコと
この三点をかかさない〜。

ことしは、超あこがれのあの方に
カードを作ってお送りしたいな ♡
ドキドキ ♡♡

北風に負けないで、
楽しくお過ごし下さいね。

(イラストレーション・文/湊 早苗)

麻布

特集

未来への

軌跡

動き出したまちづくり

前号まで「麻布の軌跡」は、麻布を現場にした先人達の業績を発掘してきました。

しかし、今回は、六本木ヒルズ、東京ミッドタウン等の出現をみて、「まち」が変わりつつあることに着目しました。

この変化は、麻布に住み、働き、来る人達が「まち」のあり方に関心をよせる契機となっている様に思えます。

今回、麻布の3地区の人達が未来への軌跡となる展望を描こうと「まちづくり協議会」を港区に登録をしたとお聞きし、お訪ねしてみました。

1 西麻布三丁目北東地区

西麻布三丁目の一画にあるこの地区は、霞が関の桜田村に由来し、旧桜田町と呼ばれていました。江戸幕府御用地の必要、拡大に伴い、桜田神社が元の桜田より何回か動かされ、寛永元年（1624）に「麻布之原」に替地され、阿佐布新宿と唱え、同時に町名は桜田町となりました。正徳3年（1713）には町奉行支配地となっていました。※1

安政3年（1856）の地図をみると、長幸寺、妙善寺、妙善寺門前、麻布桜田町、桜田稲荷、観明院門前・別当観明院、桜田町となっています。明治5年（1872）に武家地、寺社地を合わせて麻布桜田町となりました。※2

明治40年（1907）の地図でも麻布桜田町で、昭和42年（1967）西麻布地区として住居表示が実施され、現在はテレ朝通り、六本木通りに面してビルになり商店、オフィス、マンション等になっています。

『西麻布三丁目北東地区まちづくり協議会』

六本木ヒルズが出来てくるにつれて、道路一本隔てた西麻布三丁目側は建物の老朽化が目立ち、またペンシル・ビル等があり、取り残された感じが強くなりました。このままで良いのかと案じ、まちづくり協議会をつくるきっかけになりました。桜田陸会、霞町会にまたがる1.0haの地区を対象として、田中健介氏を会長に『西麻布三丁目北東地区まちづくり協議会』がつくれ、平成19年（2007）10月、港区に登録しました。

この地区の特徴は、お寺と神社が含まれ、テレ朝通りと六本木通りに交差する地区でテナントが多く、住民210人余と法人70社余が混在した複合的なことです。

「まちづくりビジョン」の基本理念を「安全・安心な地区

の形成と業務・商業機能の維持・向上」としつつ、「緑地の推進、歴史文化環境の保全」を目指しています。

平成21年（2009）9月に地区内の関係者を対象にして「まちづくりビジョン」の説明会を行い、住民の過半数の合意を確認、11月、港区に「まちづくりビジョン」に登録しました。

2 六本木三丁目東地区

この地区は、市兵衛町通りと六本木通りの間にあるなだれ坂と寄席坂に挟まれた傾斜地です。市兵衛町は正徳3年（1713）、町奉行支配になりぎわい、なだれ坂に今井町寺町、湖雲寺門前等ができ次第に町家の密集を見るに至ったそうです。※3 文久2年（1862）に島山民部邸、湖雲寺永預地と5寺があり、現在は善学寺、円林寺の2寺と民有地です。なだれ坂は、長垂坂、流垂坂などと書かれていました。※4

また、寄席坂は大正初期に義太夫などの色物の福井亭なる寄席があったことから名前が由来しています。※5

さらに、大正14年（1925）に都電、溜池—六本木間が開通し、青山六丁目間の都電とつながりました。昭和初期から戦後にも六本木通りの両側はいろいろモダンな商店等が並び、東京オリンピック時に六本木通りに首都高3号渋谷線が建設されました。近年は周囲の再開発が進みTキューブ、泉ガーデンの完成を経て、過っての六本木通りも商店は次第に姿を消し、オフィスと飲食店に変化してきました。

六本木三丁目東地区まちづくり協議会
足立軍二さん・水橋則男さん



(地図) 六本木三丁目東地区



『六本木三丁目東地区まちづくり協議会』

この地区の西側に超高層ビルの再開発事業が着工し、さらに旧プリンスホテル、IBMビルのあるなだれ坂を挟んで東側にも、再開発計画があると聞きました。超高層ビルに囲まれ、われわれはこのまま何もしないでいいのか、と将来のまちの姿を想像して住民や商店の人達は大きな不安にとらわれました。

住民などによる設立総会を経て、平成20年10月に水橋則男氏を会長に港区まちづくり条例に則った『六本木三丁目東地区まちづくり協議会』を立ち上げ港区に登録しました。六本木市西町会、今井町親睦会、麻布市兵衛町会にまたがるほぼ1.8haのこの地区は、住民550名余（外国人約100名）を数えています。

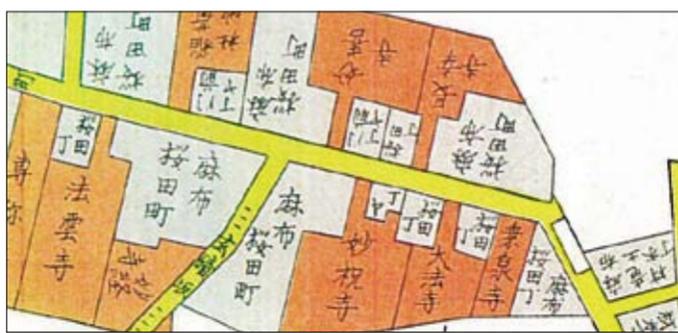
協議会を9回開き、港区から条例の話を開き、さらに区から派遣されたコンサルタントと一緒に道路整備、建築基準法等についても勉強しました。近隣の再開発完成後にこの地区がどのようになっていたらよいか、いろいろな意見交換やアンケートの結果をまとめています。「都市機能と調和しながら人と環境を尊重したまちづくり」を基本理念とした「まちづくりビジョン」を策定し、条例の規定にそって住民の承認を得ようとしています。さらに、地区の人達と協議会の話題を共有するために「六本木3東まちづくりNEWS」～みんなで協働して進めるまちづくり～の標語のもとに日・英語一紙のニュースを発行しています。

まちづくり協議会を立ち上げた後、現在進行中の近隣の再開発事業者とも情報交換がお互いできるようになりました。これからは、より具体的に持続可能なまちづくりの内容を将来に向けて深めていかなければならないと協議会では考えています。

3 麻布十番商店街地区

「十番」の称の起りは、元禄10年（1698）白金御殿御譜請に際し、川さらいの人足が編成され、ここが十番組であったことによります。享保14年（1729）に十番馬場が造られ、町屋が公認されて十番馬場町となり、明治5年（1872）麻布新網町に編入されました。その後十番はなくなったが昭和37年（1962）麻布十番町が復活しました。※6

江戸時代、町奉行支配地で、麻布網代町、新網町のあたりは麻布十番の通称で明治中期から戦争中まで有数の盛り場



(地図) 西麻布三丁目北東地区

港区郷土資料館編
港区近代沿革図集麻布・六本木所収
文久2年（1862）
ほか同様



(地図) 麻布十番商店街地区
麻布十番商店街地区交通環境改善まちづくり協議会
須永達雄さん・西本良一さん



で、新興花街としてもはやされました。昭和4年(1929)『麻布の夜の賑ひは「麻布の銀座」と云われる十番で、夜な夜な露店が出て人波のごった返す態は道玄坂下や新宿通りを彷彿として居る。』との記述がみられます。※7

昭和36年(1961)地下鉄日比谷線が開通しましたが、十番駅は出来ませんでした。昭和59年(1984)の麻布十番商店街は、交通不便であるが乗用車の来街には便利で、近隣生活者は地域中心の商店街をのぞみ、十番は業種、品格等から独特のイメージがあり、「人情の温かさ」が商店街の存立基盤としていました。※8 平成12年(2000)地下鉄南北線、大江戸線の開通とともに麻布十番駅が開設され、さらに近隣に六本木ヒルズが完成しました。

『麻布十番商店街地区交通環境改善まちづくり協議会』

この商店街は独自の十番ルールがあり地域型商店街として「ほほえみの街・麻布十番」をモットーに商店街づくりをしてきました。しかし、地下鉄2線の十番駅の開設、さらに六本木ヒルズ存在によって来街者数の増加が約4倍にもなり、まわりもマンションが増えて来ています。この変化により、生活道路である麻布十番商店街通りに車の流入がさらに多くなり、生活者や来街者の交通安全の確保という課題が生じてきました。人にやさしい歩道にするために拡幅をめざし警察などの諸官庁

と協議をしてきました。

しかし、今一度まちづくりから考えようと平成

21年(2009)8月に須永達雄氏を会長として『麻布十番商店街地区交通環境改善まちづくり協議会』を設立し、区に登録しました。新二会、網代会、坂下会、十番陸会、宮村会の5町会にまたがるこの地区は1.2haあります。交通問題を中心に据えてまちづくりを考えていこうとしています。

終りに、

「港区まちづくり条例」に則った「まちづくり」のアプローチは、3地区とも各々特徴を持っています。各地区の協議会は未来に向かつて軌跡をえがき始めていますが、自ら「まちづくり」をどのように創造していくのでしょうか。

※1 竹内 誠著 東京の地名由来辞典 p166-167 東京堂出版
吉田政一編集 麻布区史 p806 麻布区役所
※2 竹内 誠著 前掲書 p167
※3 竹内 誠著 前掲書 p36、39-40
※4 港区教育委員会 麻布一その北東部 p49-50
※5 織田 純一郎編 東京明覧(下) ©第19章遊覧 p10 集英堂
※6 竹内 誠編 前掲書 p16
※7 松川二郎著 全国花街めぐり p82 誠文堂
※8 麻布十番商店街振興組合の近代化の問題点と改善策 麻布十番商店街振興組合
参照/吉原健一郎、徳元昭監修 江戸明治東京重ね地図 (株) エービーピーカンパニー
取材協力/西麻布三丁目北東地区まちづくり協議会:伊藤隆史 寺尾基 福元陽子
六本木三丁目東地区まちづくり協議会:水橋則男 足立軍二
麻布十番商店街地区交通環境改善まちづくり協議会:須永達雄 西本良一
文中敬称省略

訂正とお詫び:前号麻布の軌跡「偏奇館」文中、「カナダ」を削除、訂正いたします。

まちづくりを支える
港区まちづくり条例

港区は、平成19年(2007)10月に「まち」の変化と人口増加を踏まえて、以前の「港区定住まちづくり条例」を「港区まちづくり条例」に改正しました。新条例は、量より質への転換を図り、「人に優しく、良質な都市環境及び居住空間の維持及び創造に資することを目的とする」(第1条)としています。

この条例は、将来20年位の都市のあり方を目標とした「港区まちづくりマスタープラン」を基本にしています。この「マスタープラン」は、港区を麻布周辺地区、六本木周辺地区等の9地区に分け、そして、パブリック・コメントを実施して各地区の特性を集約し、それぞれが「住みつけられるまち」、「個性的で多様な魅力があるまち」に、さらに「安心・安全なまち」で、かつ「持続可能なまち」になることを目指しています。この特長は、区全体のバランスを見ながら身近な「まち」を考え、さらに物的環境整備のハードに重点を置きつつ、「まち」の維持管理、防災、防犯、コミュニティ活動支援等のソフトにも少し気を配っていることです。

特に「港区まちづくり条例」の8条から12条まで、区民が主体的に進めるまちづくりの仕組みについて決めており、一定の条件のもとでまちづくり組織の区への登録を認めています。この条例に基づいて、港区はまちづくり相談、出前講座、専門家の派遣、広報、活動への助成金など段階的な支援体制を組んでいます。

(取材・文/浅川一枝 高柳由紀子 田中亜紀 森 明
タイトル/高橋 光)

麻布地区総合支所は、地域のさまざまな課題について、区民の皆さんの立場で、ともに考え、ともに解決に取り組んでまいります

港区基本計画・麻布地区版計画書について

港区は、平成21年度から向こう6年間、区が進むべき方向性を示した「港区基本計画」を平成21年2月に策定し、区内5地区でも、それぞれ別個に「地区版計画書」を策定しました。これには、地域の事業や特有の課題を踏まえ、解決策や各地区の魅力を高める各地区独自の地域事業を盛り込んでいます。

麻布地区が目指す将来像は「生活者優先の、安全で安心して快適に住み続けられる国際・文化都市」です。これは、公募で集まった麻布地区の区民参画組織「麻布を語る会・麻布地区版基本計画策定分科会」の皆さんの提言をもとに、多くの区民の皆様と連携・協力して実現して行くべき姿として、区が計画書に定めたものです。

本計画は、検討の初期段階から区民参画により策定しました。今後はさらに、実行段階でも区民の参画を得ながら、

成果を検証していく予定です。

このコラムでは、麻布地区版計画書の中から、12の地域事業を順次ご紹介していきます。

麻布地区地域事業について

1 災害時セーフティネット構築事業

【事業化に至った課題認識】

麻布地区内には、日々多くの通勤・通学・買い物客等が流入滞りしており、発災時には混乱等も予想されます。また、町会・自治会等から災害時における帰宅困難者への支援についての不安の声が上がっています。さらに、区内企業等の具体的な災害対策について把握できていない現状があります。

【事業の内容】

| 計画目標 (23年度末) | 現状 (20年度) | 事業計画 | | | |
|----------------------------|--------------|-----------|-----------|------|----|
| | | 21年度 | 22年度 | 23年度 | 計 |
| 企業等 現状調査・ 分析 | — | 調査・ 分析 | 策定・ 実施 | 実施 | 実施 |
| 平時及び災害 時の活動計画 の策定・実施 | — | | | | |

港区地域防災計画に基づき、麻布地区内の帰宅困難者、外国人及び来街者等への具体的な対策を区内企業・関係団体等と連携して構築します。

2 安全・安心に特化した公園づくり

【事業化に至った課題認識】

麻布地区には、六本木など都内有数の繁華街があります。繁華街近隣の公園や児童遊園等では、管理面での安全(防犯)対策を確保することが必要です。

【事業の内容】

| 計画目標 (23年度末) | 現状 (20年度) | 事業計画 | | | |
|-------------------------|--------------|-----------------|----------------|----------------|----------------|
| | | 21年度 | 22年度 | 23年度 | 計 |
| 安全・安心に 特化した 公園の改修 | — | 地元 検討会 開催 | 改修 着手 1園 | 改修 完了 1園 | 改修 完了 1園 |
| 1園 | | | | | |

「区民の憩いの場」や「交流の場」という公園本来がもつ機能を十分果たすため、区内にある公園や児童遊園等について、地元住民と協議や検討を進め、防犯や防災対策等安全・安心の視点から、改修等を行います。

3 子ども芸術ふれあい事業

【事業化に至った課題認識】

現在、芸術分野ではDVD等が数多く販売されているため、直接会場で鑑賞する機会が少なくなっています。そこで、子どもたちの人間性や創造性を養っていくため、プロの芸術家の練習を見学していくことにより、作品をどのように創り上げるのか、本番の華やかさの裏側にある努力や協調、練習の厳しさ等様々な要素を学ぶとともに、本番の見学や実演を通じて感動や喜びを体験していきます。

【事業の内容】

| 計画目標 (23年度末) | 現状 (20年度) | 事業計画 | | | |
|-----------------------|--------------|------|------|------|------|
| | | 21年度 | 22年度 | 23年度 | 計 |
| 舞台等 芸術文化施設 での鑑賞 | — | 50人 | 50人 | 50人 | 150人 |

区内の芸術文化施設や、芸術家に依頼をして、小中高校生を対象にプロの芸術家の練習及び本番を見学します。

(次号に続く)

読者の皆さん、ご意見ください。

本紙記事の感想や取り上げてほしい情報など、何なりとお寄せください。より魅力的な紙面にするための参考にさせていただきます。

ご意見をお寄せいただいた方に麻布オリジナルグッズ「旧町名バンダナ」プレゼント!

「ザ・AZABU」では読者の皆様からのご意見・ご感想を募集しています。

ご住所・氏名・年齢・職業をご記入の上、下記までご応募ください。

- 電話で.....03-5114-8812(月~金/午前8:30~午後5:00)
- ファックスで.....03-3583-3782
- 郵送で.....〒106-8515 港区六本木 5-16-45 港区麻布地区総合支所「ザ・AZABU」編集室宛



港区麻布地区 総合支所だより

麻布警察署からの お知らせ

犯罪被害者ホットラインのお知らせ

●もう一度 あなたの笑顔を見たいから
相談してみませんか

電話 / 03-3597-7830

午前8:30～午後5:15

(土・日曜、祝日、年末年始を除く)

FAX / 03-3592-6840

オウム真理教犯罪被害者等 給付金のお知らせ

オウム真理教による、地下鉄サリン事件等の対象犯罪行為により、被害を受けた方、ご遺族の方を救済するための給付金支給が行われています。

電話 / 03-3581-5220

午前8:30～午後5:15

(土・日曜、祝日、年末年始を除く)

東京都公安委員会指定 犯罪被害者等早期援助団体 社団法人被害者支援都民センター からののお知らせ

●応援します あなたの笑顔 戻るまで
必要に応じて面接相談や直接支援を行います。

電話 / 03-5287-3336

月・木・金曜日 午前9:30～午後5:30

火・水曜日 午前9:30～午後7:00

(土・日曜、祝日、年末年始を除く)

FAX / 03-5287-3387

ホームページ / <http://www.shien.or.jp>

総合支所からの お知らせ

駅前放置自転車対策

麻布十番暫定自転車置場を 開設しました

昨年9月に麻布十番暫定自転車置場を開設しました。地下鉄麻布十番駅や麻布十番商店街から近く、大変便利な場所にあります。自転車でお越しの際は、是非この自転車置場をご利用ください。



ところ / 麻布十番1-4-10 (鳥居坂下)

料金 / 無料

開設時間 / 24時間開放 (入口は鳥居坂側)

利用上の注意事項

- 自転車専用の一時的置場です。バイクは置けません。
- 一時的置場ですので、長期間放置されている自転車は撤去します。
- 置場内での盗難や事故については、区は責任を負えませんのでご注意ください。
- 置場に設置されている看板をよくお読みになりご利用ください。

お問い合わせ /

麻布地区総合支所協働推進課活動推進係

電話 / 03-5114-8802

港都税事務所からの お知らせ

港都税事務所が移転しました

移転先所在地 /

〒106-8560 港区麻布台3-5-6

電話 03-5549-3800 (代)

アクセス /

- 地下鉄日比谷線神谷町駅
2番出口から徒歩10分
 - 地下鉄南北線六本木一丁目駅
2番出口から徒歩9分
 - 地下鉄大江戸線、地下鉄南北線麻布十番駅
6番出口から徒歩11分
 - 都営バス渋88系統 (渋谷駅～新橋駅)
麻布台停留所から徒歩1分
- ※駐車場が少ないので、なるべく公共の交通機関をご利用ください。

お問い合わせ / 港都税事務所

総務課相談広報担当

電話 / 03-5549-3800(代)



麻布税務署からの お知らせ

申告書はご自分で書いて 提出はお早めに

平成21年分の申告の申告書の相談、申告書の受付および納付の期限は以下のとおりです。

所得税 2月16日(火)～3月15日(月)

贈与税 2月1日(月)～3月15日(月)

個人事業者の消費税および地方消費税

1月4日(月)～3月15日(月)

税務署では、閉庁日(12月29日～1月3日、土・日曜および祝日)の相談や申告書の受付は行っておりませんが、申告書はe-Tax(イータツ

麻布消防署からの お知らせ

いよいよです 義務になります! ジュウケイキの設置



「ジュウケイキ」って何語?

日本語です! 漢字で書くと「住警器」。つまり、住宅用火災警報器のことです。

●東京都では、平成22年4月1日から、すべての住宅への住警器の設置が義務となります。

●煙に反応する煙感知器、そして、熱に反応する熱感知器があります。

●ホームセンターなどで購入できます。お買い求めの際は、品質を保証するNSマークが付いているものを選びましょう。

●すべての居室、台所、階段に設置しましょう。
皆さんにとって、住警器は火災に立ち向かう生涯の友...あなたのため、あなたの大切な人のため、住警器を必ず設置しましょう...

お問い合わせ / 麻布消防署防火管理係

電話 / 03-3470-0119

クス) や郵便または信書便による送付、税務署の時間外文書収受箱に投函することで提出できます。

納税には、振替納税をご利用ください



●所得税の確定申告は
e-Taxをご利用ください。

お問い合わせ / 麻布税務署

電話 / 03-3403-0591

国税庁ホームページ /

<http://www.nta.go.jp>

e-Tax ホームページ /

<http://www.e-tax.nta.go.jp>

麻布地区総合支所地域事業

「麻布未来写真館」では、 未来に伝えるべき「古い写真」 を探しています!

「麻布未来写真館」とは?

今年度から麻布地区総合支所では、区民や企業、大学等と協働し、麻布地区の昔の写真などを収集するとともに、定点写真を撮影し、麻布のまちの変化を保存する取組みとして「麻布未来写真館」事業を運営しています。麻布地区の写真資料を収集・保存していくことを通じて、麻布地区に暮らす人々にとって身近な歴史・文化資源を保全・継承するとともに、より一層の活用を目的としています。

古い写真をお寄せください

未来に向けて、残し、伝えていくべきと感じになる「麻布地区の古写真」がありましたら、どのようなものでもかまいませんので麻布地区総合支所までお寄せください。ご提供いただいた写真は、複写のうえ返却させていただきます。

応募方法 /

プリント写真に、写真の「撮影箇所」「撮影時期」「撮影者」と、ご提供いただく方の「お名前」「住所」「氏名」「連絡先(電話番号等)」を添えて(様式自由)、郵送または持参してください。ご提供いただいた方には、麻布オリジナルグッズ「旧町名バンダナ」を差し上げます。

応募期間 / 1月5日(火)～(随時)

注意事項 /

- ①収集した写真は、港区が麻布未来写真館事業において使用するものとし、当事業の実施に伴う公表、展示、冊子化の際には、港区が無償で使用させていただくものとします。
- ②個人が特定される写真の場合、写っている本人またはその関係者の了承を得ていただきますようお願いいたします。
- ③応募にあたり収集した個人情報、本事業以外には使用しません。

提出先・お問い合わせ /

〒106-8515 港区六本木5-16-45

麻布地区総合支所協働推進課地区政策係

電話 / 03-5114-8812

まちづくりビジョンが 登録されました

6ページに掲載の「麻布一未来への軌跡」で紹介された、西麻布三丁目北東地区まちづくり協議会のまちづくりビジョンが昨年11月16日に登録されました。ビジョンは、地区のまちづくりの基本理念や将来像について協議会の皆さんが検討し、地区内にお住まいの方や会社の半数以上の同意を得たもので「安全・安心な地区の形成」「業務・商業機能の維持・向上」などを基本理念としています。詳しくは各総合支所にある「まちづくり組織登録簿・ビジョン登録簿」をご覧ください。

お問い合わせ / 麻布地区総合支所協働推進課

まちづくり推進担当 電話 / 03-5114-8815

AZABU

●配布設置場所案内
六本木1丁目、六本木、広尾、麻布十番の各地下鉄の駅、ちいばす車内、みなと図書館、麻布図書サービスセンター、麻布福祉会館、西麻布福祉会館、飯倉福祉会館、本村福祉会館、大平台みなと荘、麻布区民センター、麻布地区総合支所等

●本紙掲載の記事・写真・イラストの無断転載を禁じます。

Chief 尾崎恭彦
Sub Chief 伊東みゆき

Staff 浅川一枝 鈴木敏江 福本綾子
石山恒子 高橋光 湊早苗
伊藤志織 高柳由紀子 森明
伊藤孝志 田中亜紀 山下良蔵
大村公美子 西野さつき
加藤智恵 橋本明子

Junior Staff 石山茜 大村響 鈴木大智



港区は、みどりの保全と
ごみの減量に努めています。

編集後記

江戸時代、元麻布あたりに住んでいた農民が麻の布を作っていたのが由来で定着し始めた「麻布」という名称は、どこか品の良さを感じる。「あさふ」ではなく「あさぶ」と濁音が入ることで、重厚な響きで高級感が湧いてくるから不思議だ。麻布地域は大使館が多く、インターナショナルな雰囲気もあり個性的な街並みを形成している。あとは人々が勝手にイメージを膨らませ、街は一人歩きし始める。「麻布」はいまやブランドである。(尾崎 恭彦)

「みなとコール」は暮らしの疑問にまとめてお答えします!

区役所のサービスや施設案内、催し情報など、お気軽にお問い合わせください。
年中無休/午前7:00～午後11:00 ※英語での対応もいたします。

電話 / 03-5472-3710 FAX / 03-5777-8752

Eメール / info@minato.call-center.jp

“Minato Call” information service
Minato call is a new city information service, available in English every day from 7 a.m. - 11 p.m.
Minato Call: Tel: 03-5472-3710; Fax: 03-5777-8752; E-mail: info@minato.call-center.jp